



# 横浜陶芸友の会だより

第146号  
平成23年  
4月1日発行

## 『第三十二回 作品展』事業報告

- 会員皆様方のご協力ももちまして、「第三十二回作品展」も無事、終了することができました。ありがとうございます。
- 今年度は、会長の尽力もあり特別支援学校の参加が三校増えました。
- 九谷焼の絵付け講習会で制作した作品が特設コーナーに並び、専修部で焼成した作品も分かるように表示しました。
- また、Eメールによる申し込みが今年度から採用されました。少しずつですが、作品展にも変化があります。
- 来年の作品展も、会員皆様方のすばらし



い作品が、たくさん出展されることを期待しております。

- 会 期 平成23年1月12日(水)～17日(月)
- 会 場 横浜市民ギャラリー 1階展示場
- 入場者数 2015名
- 出展者数 59名(特設コーナーのみの1名を含む)
- 養護・特別支援学校 7校
  - (聖坂養護・本郷・上菅田・日野中央高等・東俣野・北綱島・港南台ひの)
  - ※小・中学校などの出展希望があればお知らせください。
- 出展数 570点
  - (特設コーナー「豆皿」と養護・特別支援学校生徒作品85点を含む)
  - ※出展料は「友の会」への賛助金です。
  - 作品は並べば良いというものではありません。ゆとりを持って展示できるように一度作品を並べて区画購入してもらえると全体の見栄えもよくなります。よろしくお願いたします。
- 懇親会参加者数 25名



〔関内駅側セルテ七階「千年の宴」にて開催〕

和気あいあい懇親会風景

- 当番人数
  - 今年度は、搬入の日に「会場係の仕事説明」と「当番日」のプリントを配布しました。人数の少ない日が分かりお手伝いだけできました。
  - ご協力ありがとうございました。
  - 会員皆様の「作品展」です。来年度にも、ぜひ、出展された方は会期中に半日でもよろしいのでお手伝いをお願いします。
  - 責任者も含めた当番人数
 

12日(8人)	13日(8人)	14日(12人)
5日(1人)	6日(8人)	7日(9人)
  - 特設コーナー
    - 今年度は「豆皿」でした。個性的な作品が41人から出展されました。
    - 来年度のテーマは、まだ決まっていますが楽しんで作陶できる課題を提案して行きたいと思えます。

その他

○今年度は、申し込みを、Eメールと封書で行ないました。Eメールで申し込んだ人は15人（4分の1）でした。来年度は、さらに検討していきたいと思えます。

○宅急便の利用案内を紹介しましたが、利用された方はいなかったようです。搬出・入の良い方法があったらお知らせください。

事業部



晴天の作品展

(感想)

川島幸子

今年の作品展は連日天候に恵まれ、心も軽く身も軽く、無事終了することが出来ました。今回は特に、受付から準備完了までの流れがとてもスムーズで助かりました。工夫を重ね

窪田さん出展作品  
(全国公募 2010 横浜  
アマチュア陶芸展・入選)



てこられた役員の方たちのご苦勞に、心から感謝申し上げます。

技術的にも知識においても、初心者マークを付けっぱなしの私にとっては、毎年の作品展はとてもありがたい催しです。大先輩の皆様から、参考になるお話を沢山お聞きすることが出来ますし、魅力的な作品からヒントを得ることも多くあります。今年も力作が並び、和やかな中にもピンと張りつめた空気を感ずりました。その贅沢な空間を味わえる幸せに感謝です。

私は日常の暮らしが、豊かに楽しくなるように願いながら、食器や花器を作っています。器によって何でもないお惣菜が御馳走に化けたり、夫に出す酒の肴がオシャレに見えたり、おみかんが二倍は甘そうに輝いていたり、器のマジックは、主婦にとってささやかな喜びです。それが自作の器であればなおさらのことです。私はこれからも皆様の御指導とパワーを頂きながら、楽しく陶芸を続けていきたいと思えます。



島本さん出展作品  
2009 神奈川県美展工芸部門  
入選 「月の雫」

「くぐりぐぐり」

(感想)

上田 由起子

染付の師はお酒がとてもお好きな方で、筆を持つ手も少しく震えている時もあったけれどそれでもほぼ毎日、構図パターンもほとんど変わることはない山水画を幾度も幾度も描かれていた。

「一生のうち三つ。ただ三つでも自分の納得できるものができれば幸せ」と。

造形の師は多く語ったりはなさらずに、迷える小羊(＝学生)の、作ることに対する見えつ張りな逡巡、苦しい紛れの言い訳をただじつと聞いて下された。そしてお忙しいご自身はと言えば、講演などの小旅行にも少しばかりの土を必ず持ち歩き、「思いついたときには、マケット(立体造形 の為の小品)を作るんや。」と、微笑みながらおっしゃった。

(ご愛用の、それは素敵なお鞆の中に)

今、わたくしはといえは亡き恩師に「あんた、今、なにしているんや?」と言われそう。後ずさり後ずさり・



上田さん作品



**兔兔何見てはねる～♪♪♪♪**  
 今年の作品展では、およそ50匹の兔達が登場しました。



# 焼成会について

## 専修教室・・・専修部

専修部は現在、専修教室として一年に一回の秋期焼成会を横浜市技能文化会館において活動しています。

技能文化会館の貸室は3ヶ月前に予約申込ができるのでここで日程の確定ができます。確定後に受付、素焼き、本焼、窯詰、窯出し等担当者の当番表を作成します。作業はすべて11名の専修部員が皆で行っておりません。

焼成作品は、大きさの規定はありませんが釉かけが自分自身でできる範囲です。  
(窯の大きさは巾85cm高さは85cm奥行は55cmの電気窯です)還元焼成はできません。



釉薬は、天然の灰等を使用し、丹念に手作りで作成しており利用される会員には自信を持って使っていたいております。

### 釉薬掛

けは参加者全員が集合時間までに必ず集まり、会場準備



(シート、新聞紙等で釉薬等がこぼれてもすぐ処理できるように床の養生等) 及び作業場の準備をすること、また自分の作品に釉薬かけが終わっても手伝い、片付け等に協力して参加者全員が共同作業をして、楽しい時間をすごせるようにお願いしています。

作品の受け渡し日には、約1時間程度の時間を設けて、いろいろな意見を出し合い、特に土と釉薬の相性についてなど話し合っています。これ等は今後の作陶の参考になっていると思います。

最近参加者及び作品の減少により窯が半分程度しか埋まらないことがあります。陶芸の楽しい時間をすごしていただけるよう、9月の焼成会には多数の参加をお待ちしております。



これらの道具・釉薬等は江口さんのお宅で預かっていただいて、その都度車で取りに伺います。





「焼成会」に参加して・・・(感想)

信岡 美野里

去年になりますが、夏から秋に専修部主催恒例の『秋季焼成会』がありました。

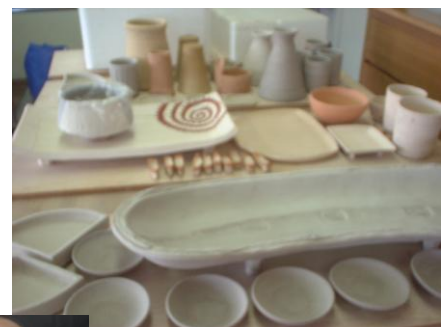
前の年、専修教室で白化粧の器を作れるようにするために専修部員で白化粧作家のところに『研修』に行かれた事を知り、私も是非その器を作ってみたくなり、参加しました。

(受付の日) 私は2日前に成形した生乾きの作品を持参、専修部の人達が親切に教えてくださり白化粧を施しました。白化粧をかける人は作品受付だけのようでしたが、真剣かつ、面白い作業でした。

(2回目) 1ヶ月後、素焼きが出来上がり、釉掛けの日です。この日も専修部の人達が釉薬など準備してくださり、丁寧に手伝ってくださって楽しく終了しました。

(3回目) 数日後に本焼きが出来上がり、取

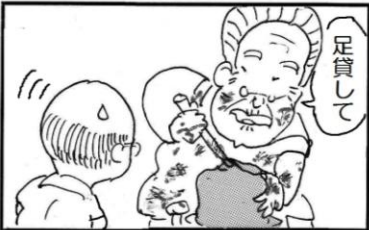
りに伺いました。  
織部・白化粧などいい色に焼き上がった器たちに感激！・・・参加者全員で焼き上がった作品を囲んでのお喋り(勉強会?)があり、楽しくて！・・・これはいいワ！・・・と思えました。  
年に一度、専修部の人達のご苦労、親切のお陰で会員一緒に焼き物を楽しめる場は貴重な有難い教室だと思えました。



# 陶陶さん

第68号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://home.f07.itcom.net/tomokai/index.html>

## 横浜陶芸友の会だより 第146号

(平成23年4月1日発行)

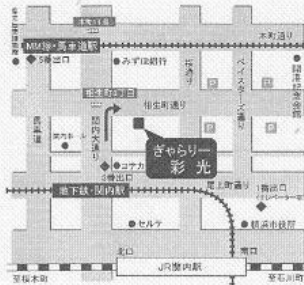
発行人 横浜陶芸友の会  
会長 松崎 紀一

編集責任者 広報部長 吉良謙

# 高野 洋 作品展 米寿記念

平成23年4月27日(水) — 5月3日(火)

10:30—18:00(初日13:00より、最終日は16:00まで)



ぎやらりー彩光  
GALLERY SAIKO

〒231-0012  
横浜市中区相生町3-63 ヤオマサビル1階  
TEL045-681-0768/FAX045-681-8810  
URL <http://www.gallery-saiko.jp>

連絡先/横浜市保土ヶ谷区峰岡町3-402 TEL.045-331-0664

### もったいないコーナー

#### ゆずります

使わなくなった陶芸材料や道具を有効に使ってくださる方を探す欄です。

#### さがしています

材料や道具の掘り出し物を探す欄です。

会員同士の材料や道具の破棄と有効利用を取り持つコーナーのご活用を願っております。

特に「さがしています」コーナーは今まで成約率が高いのでおすすめです。 広報部

### 編集後記

4月号編集の目途が立ったとき、地震、津波、原発事故が起き、ガソリン、電池、ミネラルウォーターの品切れが起きました。4月号がお手元に届く頃は製鉄、化学プラント、から始まる製造業へのボディーブローの影響ははじめている事と思います。

震災で犠牲になられたの方々のご冥福をお祈りするとともに、避難を余儀なくされている多くの方々の不安、原発現場で作業に当たっている皆様のご苦労を想うと、我々の日常も考え直さなくては・・・と思います。

広報

## 23年度 総会のお知らせ

(予定)

杉田地区センター4F

5月14日(土)

PM3時~

会員各自が自覚を持って参加し、よりよい会の運営のために多くの方の参加をお待ちしています。